



OHARAサポーター倶楽部会報

丸窓

[第24号] 2021年1月

《掲載情報》

- ・メッセージ
- ・私が選ぶ この1点
- ・学芸室より など

発行: 大原美術館後援会事務局

メッセージ

「みんなのマイミュージアム」を目指して——
新しい年を迎え、大原あかねよりごあいさつ申し上げます

理事長 大原あかね



©才士真司

みなさま、あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

昨年はCovid-19感染症の影響を大きく受けた一年でした。様々な困難がありましたが、後援会会員様からいただく温かな応援メッセージに、後援会事務局のみならず、美術館の職員たちも何度励まされたかしれません。時には厳しいご意見をいただくこともありましたが、それも皆様が大原美術館のことを大切に思ってくださっているからこそと、大変有難く感謝申し上げます。

また、クラウドファンディングを始めとする弊館の寄付活動にもご支援を賜りましたこと、重ねて御礼申し上げます。財政的にはまだまだ厳しい状況ではございますが、これからもお客様をお迎えし続けるために、努めて参ります。

「みんなのマイミュージアム」私たちが目指している大原美術館の形です。そして、後援会会員の皆様それぞれの「マイミュージアム」になりたいとも思っています。そのために、お一人お一人と丁寧にお付き合いをさせていただくことを大切にしていきたいと思います。うれしい時も、悲しい時も、ハレの日も普段の日にも気軽にお越しただけなら幸いです。

今年がどのような年になるか、見当がつきませんが、年末には、会員の皆様と笑顔で「いいことがたくさんあった一年でしたね」と言えることを願っています。末筆ではございますが、皆様の本年が幸多き一年になりますことをお祈り申し上げます。

大原美術館活動報告

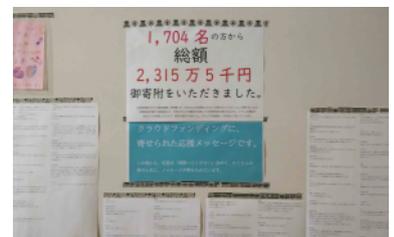
クラウドファンディングのご報告

前号「丸窓」23号で少し触れておりましたが、クラウドファンディングの取り組みについて、昨年末12月25日で終了し、全国各地の方々から2300万円を超えるご支援を賜りましたことをご報告申し上げます。Covid-19感染拡大の影響で入館料収入が激減する中、以前から「やってみては？」と各方面からすすめていただきながらも尻込みしていたクラウドファンディングで助けをを求めることを決意。担当者が、リサーチや、プラットフォームとしてお世話になったレディーフォアと協議を重ね、10月26日にスタートしました。すると・・・なんとたった5日と半日で目標の1000万円を達成することができました。そして、11月から次の目標を3000万円に設定して、引き続き支援のお願いをいたしました。

ご寄付はもちろんとっても有難いのですが、ご支援とともに寄せられる応援コメントは、大変励みになりました。その数1700件以上！バックヤードの廊下の壁がいっぱいになるほどあまたのコメントを貼りだして、職員みんなで共有し、元気をいただいています。

大原美術館での大切な思い出を語ってくださる方、好きな作品を教えてください方・・・恥ずかしながら「こんなに愛されているんだ！だからもっとがんばろう！！」と実感できました。

また後援会会員の多くのみなさまからも、さらにご支援や励ましをいただきましたこと、心より御礼申し上げます。



バックヤードの廊下壁面

後援会法人会員の企業・団体様にご協力をお願いしてポスターを製作している「私が選ぶ この1点」
取材内容をこの紙面でもご紹介します！

カモ井加工紙株式会社 代表取締役社長 鴨井 尚志氏



絵心を母親のおなかに忘れてきてしまった私が、初めて大原美術館を訪れたのは、小学生の頃だったでしょうか。絵画にさほど興味がないうちに、ふと一枚の絵の前で立ち止まりました。エル・グレコの「受胎告知」です。何に魅了されたのか記憶にありません。ただ、強烈な印象を受けたことは鮮明に覚えています。爾来、大原美術館を訪れる度に「受胎告知」の前で足を止めますが、その都度絵の印象が変わっていることに気付くようになります。一枚の絵画を通して、自分の思考や感性の変化・履歴を感じることができるのです。昔読んだ本を読み返して、新しい気付きや発見に遭遇するのと似た感覚です。自分がどのような心境でその絵を見ているのか、何を感じるのか、これからも自身の鏡として「受胎告知」を大切に鑑賞したいと思います。

エル・グレコ 《受胎告知》
109.1×80.2cm 油彩、画布 1590年頃～1603年

学芸室より

大原美術館の保存・管理担当の学芸員より 年末大掃除！でも今年は何かが違う？

学芸員 塚本貴之



掃除のために壁から作品を降ろす様子



作品の裏側もしっかり掃除

今では恒例行事となった大原美術館の年末大掃除。会員のみならず新聞やニュースでご覧になられたのではないのでしょうか。

1年間多くの来館者を迎えた作品たちを労いながら、職員が総出で館内を掃除するのが常ですが、今年は例年と比べて少し様子が異なりました。

Covid-19感染予防のため、掃除に参加する人数を20人ほどに減らし、絵画などの作品の掃除も6名の学芸員のみ。そのため、いつもはあちこちで聞こえる「こっち拭いた？」、「そこは終わったよ！」といった声も今年は少なく、なんだか寂しい光景に・・・。

また、今年初めの休館で来館者が減少したこともあってか、作品たちに降りかかる埃も心なしか少なかったようです。いいのか悪いのか、保存担当として埃は無いに越したことはないのですが、一方で来館者が作品と対面した機会の少なさを物語ってもいます。

Covid-19は我々の身の回りの様々なことを変化させてきました。そして恐らくこれからも多くの変化を強いるでしょう。しかし、そのような状況でも大原美術館はいつもと変わらぬ姿で在り続けたい。そんなことを考えながら掃除に取り組んだ年末でした。

ミュージアムショップよりお知らせ



マルシェバック
¥1,210(税込)

美術館と所蔵作品にまつわる様々な人・ものをイラスト化し、あしらった「マルシェバック」。茶色地にターコイズブルーのコントラストも鮮やかにリニューアルしました。デイリーユースにも、ちょっとしたプレゼントにもおすすめです。

さて、本年度の「名画カレンダー」が、11月上旬に売り切れてしまい、いつも楽しみに

してくださっていた皆様には大変申し訳ございませんでした。次年度の掲載作品はこれから選定してまいります。皆様にお求めいただけるよう準備してまいります。また、新商品も少しずつ開発していきたいと考えております。出来ましたら、本紙面等でご紹介いたしますので、楽しみにしていただければ幸いです。

表紙の絵



今年は丑年！

アンリ・ルソー
《パリ近郊の眺め、バニユー村》
33.0×46.3cm 油彩・画布 1909年

ルソーは、パリ市税関に22年間務めながら、独学で日曜画家として風景などを描いていました。美術教育を受けなかったルソーは、遠近法や明暗法などに縛られることはありませんでした。本作品でも、牛や人物、積みわら、樹木などが、位置も大きさも、遠近法を無視して配されています。しかし、この独創的な表現は、個々のモチーフの存在感を増し、独特の幻想的な空間を生み出しています。